

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 5月号

① 組合長が准組合員と意見交換

J A 鳥取中央の栗原組合長は、琴浦町で准組合員と意見交換を行い、J A への意見や要望を聞き取った。

面会をした元女性会東伯支部会長の丸本さんと東伯支所年金友の会役員の杉本さんからは「県外からの新規就農者獲得への取り組み」や「J A 職員と組合員との関係性の強化」等が求められた。

栗原組合長は「要望を受け止め、対応していく。新規就農者の定着に向けても積極的に取り組んでいく」と伝えた。

同 J A では、今後も定期的に担い手や准組合員と面会し、意見や要望を形にしていく。



② 令和2年度 大栄花き販売反省会

令和2年度の大栄花き販売反省会が北栄町で行われ、生産者、取引市場担当者、行政、J A 関係者ら約30人が参加した。

令和2年度は、全品目合わせて出荷本数が22万4千8,910本（前年対比95%）、販売金額が1億6,933万5,619円（前年対比84%）という結果だった。

令和3年度の取り組みについては、「電照等の開花調節技術による出荷量の平準化」や「リモート通信やSNSを活用した販促活動」など更なる大栄ブランドの地位向上を図っていくことを確認した。



③ 令和3年度新規採用職員研修を実施

令和3年度新規採用職員9人が、8日間の研修を受け、新社会人として必要な礼儀や心構え、部署ごとの事業概要などを学んだ。

4月5日には（株）グリーンファーム大黒が管理する圃場でスイカの苗の植え付け作業を行った。同社の社員から作業の注意点について説明を受け、ビニールに包丁で切り込みを入れ、約600本の苗を定植。農業の楽しさや苦労を体験した。

他にもパソコンやコンプライアンス、金融・共済研修等を受け、J A 事業への理解を深めた。

